

最近の科学技術の動向について

— 月例科学技術報告 —

平成 13 年 12 月 25 日

各国の科学技術政策責任者による
非公式意見交換のポイント

各国の科学技術政策責任者による 非公式意見交換のポイント

カーネギーグループ会合が、11月30日から12月2日にかけて、主要先進国（英、加、独、伊、日本、露、米）の政策責任者の出席の下、英国において開催された。

本会合は、その性格として非公式であり、かつ、政策決定を行うものではないが、今回の会合においては、我が国にとって重要な情報を含んでいるので、主要な点を紹介する。

（参考）カーネギーグループ会合について

- ・ 主要国（G8及びEU）の科学技術担当閣僚もしくは政府指導者に対する科学技術顧問などによる非公式な意見交換の場。
- ・ ブロムレー米国大統領補佐官の提唱により発足し、1991年2月に第1回会合を開催。当初はカーネギー財団が支援。
- ・ 日本からは、1998年12月以降、井村総合科学技術会議議員が出席。
- ・ 最近の主な議題としては、バイオテクノロジーと遺伝子の特許、エネルギー問題、遺伝子組換え植物及び食品についてなど。

【主な話題と意見交換の概要】

1．テロリズムと科学技術の役割をめぐって

- 9月11日の国際貿易センタービルなどへの攻撃や炭疽菌によるバイオテロは、世界中の人々を恐怖させたが、こうした中で重要であったことは、正確な情報伝達であり、米国においてITの役割が改めて認識された。
- テロ対策における科学技術の役割については、アメリカ科学アカデミーが委員会を設置して適切な助言を行ったことが、高く評価された。
- 生物及び化学テロへの対策には、国内への対策と国際的な協力が必要。特に、生物テロに関しては、WHOの役割が重要であるが、各国政府も協力、支援をすべきである。また、科学者の自覚と協力が必要なことが、多くの出席者の間で同意された。

2．エネルギー問題とITERをめぐって

- エネルギーは今世紀の人間生活を支える重要な要素で、その需要は増しつつあるが、他方では、化石燃料によると考えられる地球温暖化が深刻な問題となっている。このため、ヨーロッパ諸国には、ITER計画を急ぎ、20～30年で実用化すべきという考えもある。
- ITERへの期待は大きいですが、それが完成したとしても地球温暖化への対策としては時間がかかる。従って、核融合の研究を進めつつも、今後とも、風力発電、燃料電池、原子力発電等、エネルギー源の多様化とエネルギーの効率的利用に努力すべきであるという点で意見が一致した。

3．その他の話題

(1)科学教育をめぐって

- 一般の人々の科学への関心が低下しているだけでなく、むしろメディアにあおられて反科学的な傾向が見られる国もあり、また学生の学力も低下しているとの指摘があった。これは全世界的現象で、対策が必要であるという意見が出された。

(2)人クローン技術をめぐって

- 米国のバイオベンチャーがヒト体細胞核を除核卵子に核移植した人クローン胚を作成し発生させたとの発表を受け、全参加国が人クローン個体を作ることに反対し、独・仏両国が国連に提案している禁止条約案を支援していくことで意見が一致した。
- 患者の体細胞核を持つ人クローン胚からES細胞を作成し、拒絶反応のない移植用組織を作る治療目的のクローン技術については、英国で許可している以外、議論が分かれ、現在検討中の国が多かった。

(3)ドイツの制度改革をめぐって

- ドイツの15の国立研究機関（全体で24,000人の人員と年間10億マルク）について、競争的環境下での資源配分を行う改革プログラムが報告された。

(4)ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム(HFSP)をめぐって

- HFSPは1987年のベネチアサミットにおいて中曽根首相（当時）によって提案されて設置された研究支援機関である。HFSPは生体を持つ機能の解明を中心とする基礎研究を発展させるための国際協力を促す上で一定の役割を果たしてきたと評価され、米国、英国から支援するとの発言があった。